

提案名	『しそう杉の家』の地域ブランド化による超長期住宅モデルの普及促進	部門	住宅の新築
提案者	株式会社山弘	種別	システム提案
構造	木造(在来軸組)	建て方	一戸建ての住宅
概要	兵庫県の工務店と製材業者が協同組合を組織し、地域材(しそう杉)の活用に取り組む多項目の提案。		

■概 評

住まい手のDIYを促すような視点での維持管理の取組みのほか、地域材活用の普及啓発の取組みを含めて評価した。

■提案の基本的考え方

南部の曲がり屋、信州の本棟造り、飛騨の合掌造りなど、日本の民家はそれぞれの地域の気候風土にあって発達しその地方独特の街並みを形成してきた。いわゆるそれぞれの地域ブランド住宅であり、かつ数百年にわたって使われる超長期住宅であった。これらは一業者でなし得るものではなく、その地域の多くの棟梁たちが伝え、また、その棟梁たちの技術を支える材木屋や林業従事者がいた。この住宅が並んだ街並みは一戸の住宅だけでは成しえない豊かさや景観の美しさを感じさせ、そこに住まう人々のアイデンティティに繋がるものであった。

超長期住宅を実現するには、実際に超長期間の耐久性があることはもちろん、それ以上に次のことが求められると考える。

- ・ 施主が自ら繰り返しメンテナンスをしてでも永く使いたい価値のある『永く愛される家』
- ・ その地域の気候風土に合った住宅として、『多くの業者が取り組める家』
- ・ 地域にこの家が立ち並び、『街並み自体が他には代えがたい価値』を持つ

以上を踏まえて、今回の提案では、

- ・ しそう杉の家を超長期住宅として完成させる
- ・ 超長期住宅先導的モデルとして、地域の他社への啓蒙活動のベースを整える

そして、将来的にしそう杉の家に取り組む地域工務店を募り、情報を提供して、(協)しそうの森の木を通じてしそう杉の普及とブランド化を図る。

■提案内容

【住宅の内容】

1. スケルトンの耐久性について
 - ① 構造材は『しそう杉』を中心とした地元無垢材100%使用
 - ② 防蟻処理は森林恵(自然素材)にて
 - ③ 塗り壁やセルロース断熱材など調湿機能を持つ壁材 + 通気工法による壁内の無結露
2. スケルトンの耐震性について
 - ① 1間グリッドによるプランニングによる耐震性のアップ
3. 維持管理の容易性
 - ① 給排水管の施工 給水は集中配管、排水はころがし配管で起訴はさや管にて抜く
 - ② 真壁工法により、構造部分のいたみやシロアリを早い段階で感知できる
 - ③ 基礎断熱の場合は、シロアリの点検がしやすいように施工する
 - ④ 1間グリッド工法であることと、メンテナンスが効きやすい素材にて仕上げる
4. インフィルの可変性について
 - ① 横架材の梁背をルール化して山側の供給をしやすくする
 - ② 1間グリッドによるプランニングであるため、間取りの変更がききやすい
5. 次世代に引き継ぐべき住宅の質
 - ① セルロース断熱および通気工法による省エネルギー性能
 - ② オプションにより、OMソーラーシステムによる太陽熱の利用が可能

6. 街並みや景観への配慮に関する取組み

①デザインテイストを和風モダンに設定することによる街並み配慮

7. 維持管理の手法

①定期点検によるメンテナンスチェック

②施主のDIYによるメンテナンスの援助

・住宅のスケルトン部分は長期にわたっても施工業者のメンテナンスが必要であるが、インフィルに関するメンテナンスの多くは施主によるDIYにての補修で賄うことができる。住宅のオーナーが永く大切に使う気持ちで醸成することが超長期住宅には必要であることを踏まえれば、むしろDIYによるメンテナンスの教育が必要である。

しそう杉の家は無垢材の木の家であり、その快適性やデザイン性に反して細かい補修が頻繁に必要な可能性がある。その内容は、塗り壁の割れの補修や、障子の張り替え、床の汚れ落としやワックスがけ、換気扇の掃除、キッチンの油汚れ落とし、窓ガラス吹きなど。これらは施主による細やかなメンテナンスを行いながら使い込むことで、木の家を価値を落とすものではなく味わいになり、年月とともに逆にその価値を高めてくれ、施主の財産を守り、より愛着の湧く超長期住宅につながる。

このことを施主に深く理解していただくとともに、以下のような方法で施主のDIYによるメンテナンスの援助を行う。

ア) 引き渡し時の取扱・メンテナンス説明と引き渡し後も定期的にメンテナンス講習を行う

イ) 自社作成のメンテナンスマニュアルを更新し、定期点検時にお渡しする

ウ) 24時間365日のコールセンターによるメンテナンスの相談の受付

8. 維持管理記録の保存

①ICタグにより、構造材(スケルトン)のトレサビリティを可能にする。

②家歴書の作成及びデータの保管を行う。

【流通について】

1. 商品開発について

山弘が参画運営している(協)しそうの森の木によって、“宍粟市のSGEC認証林への取り組み”、“しそう材を使った新商品の開発”、“健康住宅の研究開発”への取り組みを強化。

2. 情報の開示～地域工務店への普及啓発～地域ブランドの形成について

しそう材を含む兵庫県産木材の利用促進を目的とした、“ひょうご木のすまい協議会”での兵庫県内工務店と兵庫県林務課との産官共同の取り組み。また、すでに6年(×年2回)の実績のある産地見学会。これら二つを強化していく。さらに今回、新たに制作する“しそう杉の家性能ガイドブック”ならびに“街並み形成に向けたイメージ画像のWEB上での公開”で、エンドユーザーのみならず対工務店への発信をして、しそう杉の家の普及啓発を行う。

そして、部材や技術の供給は(協)しそうの森の木を通して行えるように体制を構築していく。これらを踏まえ、将来的にしそう杉の家に取り組む工務店を増やし、地域ブランド住宅として定着を狙う。

【協同組合しそうの森の木】

※この協同組合は、以下の5社にて出資・協同経営している。

・	株式会社山弘	建築業	宍粟市の林産資源の再活用、疲弊した林業の再興を目的にH14年6月、左記5社にて協同組合として発足。
・	株式会社大成	製材業	
・	有限会社丸正木材	製材業	
・	有限会社杉下木材	素材生産業	
・	株式会社八木木材	素材生産業	

国産材を建材として見た時、外国から輸入した木材を使うことよりも環境的に有益なことは明確である。しかしながら業界全体を見るとそれを支えるだけの建材としてのボリュームは多くない。

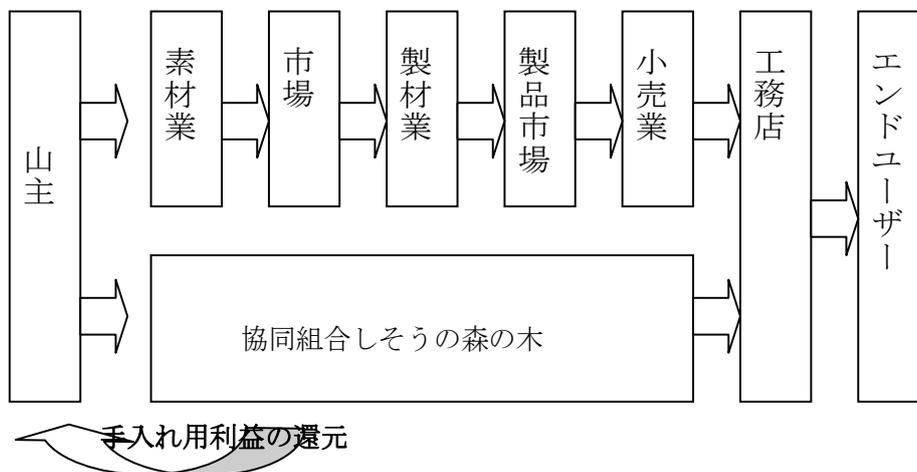
現在、国産材の需要が高まりつつあるが、その相場はいまだ下落したままで山主に利益が返らないことから山主が手入れを行わないケースがほとんどであり、現在ある良質材のストック（建材として使える木材）を皆伐した後は植林すらしめない状況だ。

超長期住宅を実現するためにはメンテナンス材が枯渇しないことが重要である。しかし、手入れなくして良質林はあり得ず、良質林なくして建材は確保できない。「手入れを続けてもらえること」が最重要である。

以下の特徴をもつ。

1. 流通の合理化

川上（原木素材生産業者～製材業者）から川下（加工工場～工務店）までが全て揃っているため、流通の合理化を図ることができる。



2. 山主への利益還元

上記の仕組みにより山主の手入れの費用を還元することで持続可能な山とする。

3. SGEC の取得

宍粟市内の SGEC の森（NFEA-026）をはじめとする持続可能な森林経営が行われている森と連携して、超長期的に材料の安定供給を行うため協同組合し SGEC の認定（NFEA-WO34）を取得した。

4. 新商品開発

工務店（株式会社 山弘）が参加しているため、施主のニーズに沿った商品を開発。

しそう杉をはじめとした宍粟材を余すところなくその辺材まで使い切る努力を行っている。

■提案者からのコメント

まず、今回の提案書類を作成することで、自社の役割、商品の価値などを再認識することができ、今後の活動を自信をもってステップアップする良い機会となった。

また、採択提案において住宅の内容はすでに実施もしくは実証実験済みであるが、流通面において超長期住宅先導的モデルの採択事業というお墨付きは非常にありがたい後ろ盾であると思う。これを機に地域材による家づくりを普及促進し、日本の家づくりをよりよくする一助としたい。